

1型糖尿病をもつ患者に対する薬物療法支援のてびき

一般社団法人 日本くすりと糖尿病学会

1. はじめに

日本において、1型糖尿病の発症率は低く、薬剤師が1型糖尿病をもつ患者と接する機会は多いとは言えない。1型糖尿病をもつ患者の薬物治療においては、使用するインスリン製剤の種類、投与方法(用法)と単位数(用量)に加え、血糖変動、目標とする血糖マネジメントなどが患者個々で大きく異なり、支援に戸惑う薬剤師は多いと考えられる。薬剤師はインスリン製剤の処方量(本数)や用法・用量の確認のみではなく、“糖尿病のない人”と変わらない QOL(Quality Of Life)を維持するため、薬物療法に関わる知識・技能を用いて支援することが重要である。そこで、日本くすりと糖尿病学会では、薬剤師に必要な1型糖尿病をもつ患者に対する薬物療法支援のポイントをまとめた。

2. 血糖管理に関する支援

血糖管理に関する支援として、良好な血糖値と低血糖は“紙一重”であり、多くの1型糖尿病をもつ患者が頻度の差こそあれ低血糖を起しているといえる。したがって、血糖管理に関する支援において、単に「低血糖の有無」を確認するのではなく、①低血糖を起した原因と対策、②対処方法などについて患者と共に考えることが求められる。また、1型糖尿病をもつ患者において、無自覚性低血糖(低血糖の特徴的な症状が生じない)の有無や過去の重症低血糖による搬送歴の確認は必須事項である。このような患者においては、CGM(Continuous Glucose Monitoring)の活用や重症低血糖時の備えとして低血糖時救急治療剤(グルカゴン点鼻粉末:バクスマー®点鼻粉末剤 3mg)の存在について紹介し、主治医とバクスマー®の処方有無に関し相談するように伝える必要がある。なお、バクスマー®は園や学校等での、教職員を含む園・学校等の職員又はスタッフ(教職員等)による投与が可能となった。生徒・児童等が低血糖により意識を消失している場合は、教職員等が一次救命救急としてバクスマー®を点鼻することが可能である。そのため、バクスマー®の保管場所として、家庭だけでなく園や学校等での保管となり複数本の処方が出ることもある。バクスマー®点鼻粉末剤 3mg に関しては、日本くすりと糖尿病学会の「点鼻用グルカゴン製剤(バクスマー®点鼻粉末剤 3mg)の適正使用について」などを参照のこと。

(1)低血糖を確認する医療機器 SMBG から CGM へ

1型糖尿病をもつ患者の治療において CGM は大変有用な医療機器であり、特に低血糖の予防や対処すべき状況において重要な情報が得られる。現在、保険が適用される CGM は表1、図1に示す通りである。